



人が生きる環境の創造

確かな品質と安全性を追求した創造性豊かな製品・サービスを社会に提供し、新しい価値・市場・トレンドの創造に挑戦し続けます。

モノ・コトづくりのクオリティの追求

重点課題

オカムラグループは、「よい品は結局おトクです」をモットーに、グローバルな視野で品質と安全性の向上に努めると同時に、お客さまのニーズに的確に対応しながら、オフィスをはじめ教育・医療・研究・商業・物流施設などさまざまなシーンにおいて、製品のあるべき姿と最適な空間づくりを追求し続けます。

オカムラグループの デザインポリシー

オカムラグループは、誰もが豊かさを実感でき、次代へよりよい環境を引き継げるよう、ものづくりにこだわり、上質なデザインの実現をめざしています。

創業以来「人間の環境づくり」をテーマに培ってきたハードとソフトに関するノウハウをベースに、さまざまなシーンにおいて魅力ある環境を創造していきます。その実現のためには、「クオリティデザイン」「エコデザイン」「ユニバーサルデザイン」の3つの視点が重要であるという考えに基づき、製品開発を進めています。

オカムラグループのデザインポリシー

お客さまにとって真に価値のある製品を追求



クオリティデザインの追求

オカムラグループは製品の本質を追求し、お客さまにとって真に価値ある製品を提供することをめざしています。製品のあるべき姿を求めて、ものづくりを極め、魅力ある新たな価値を創造します。具体的には、安全性の確保はもとより、人間工学*に基づいた設計をはじめ、快適性の向上、創造性を高める環境の実現などに取り組み、常にお客さまのニーズに的確に応えられるような製品開発を行っています。

* 人間工学：人間の身体的、認知的、組織的な特性を理解し、さまざまな製品・環境・サービスに適応させるための科学分野

エコデザインの追求

オカムラグループは、原材料の選択から使用後の処理まで、製品のライフサイクル全体において環境負荷がより少ない製品を開発し、お客さまに提供することで、持続可能な社会づくりに貢献します。そのために、製品の企画・デザイン・設計の各段階で製品アセスメント*を実施するとともに、独自の環境基準による認定を行っています。(関連 [▶ P.69](#))

* 製品アセスメント：より環境負荷の小さい製品を開発するために、製品の開発、設計段階で、その製品が環境に与える影響を評価すること

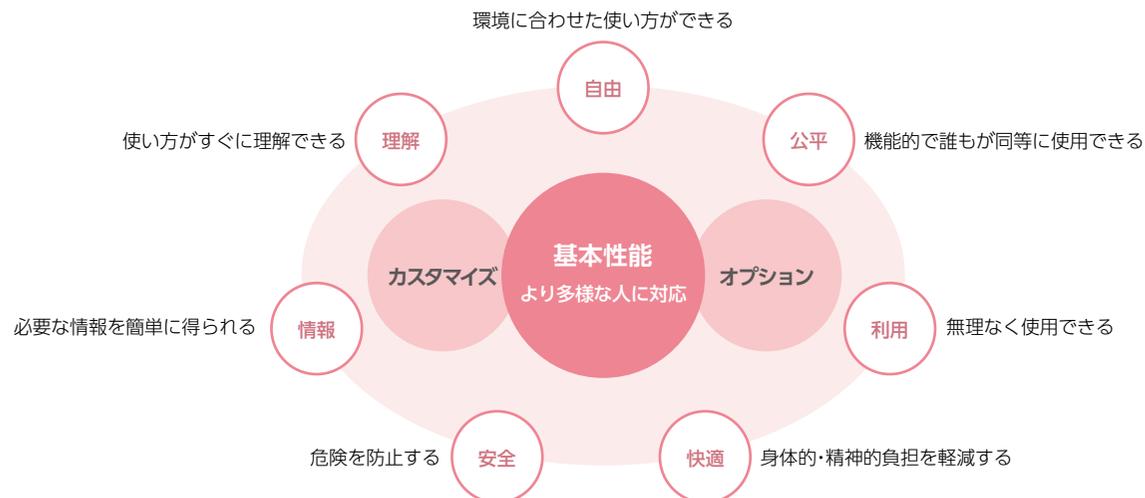
ユニバーサルデザインの追求

オカムラグループは、誰もが豊かさを実感できるデザインを追求し、製品と空間を使用すると考えられる多様な人を想定して開発を行っています。製品の基本性能を高めるとともに、オプションの追加やカスタマイズにより、安全性や快適性、適応性、わかりやすさ、情報へのアクセスなど、すべてのユーザーにとって使いやすい製品と空間を提供することをめざしています。

ユニバーサルデザインの普及に向けた取り組み

オカムラは、一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会（IAUD）に設立時より参画し、国際会議への協賛や協議会活動への支援を行っています。同協議会は、ユニバーサルデザインのさらなる普及と実現を通じた、社会の健全な発展と豊かな暮らしづくりをめざして活動しています。

オカムラグループのユニバーサルデザインの考え方



デザインポリシーに基づくモノづくり

オカムラのものづくり思想

「サーキュラーデザイン」の策定

オカムラグループは、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の概念に基づき「サーキュラーデザイン」の考え方を打ち出しました。製品企画・設計から調達、製造、販売、メンテナンス、リユース・リサイクルに至るまでの製品ライフサイクルの中で、限りある資源をより長く有効に使用し、廃棄物の発生を最小化するものづくりをめざすことで、環境負荷を低減し、持続可能な社会づくりに貢献します。（関連 ▶P.20）

オフィス製品の

「カーボンオフセットプログラム」を開始

オカムラは、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、オフィス製品の原材料調達から製造、販売、使用後の処理までの製品ライフサイクルを通じたCO₂の排出量を把握し、排出量と同等の排出権（クレジット）付きの製品をお客さまに提供する「カーボンオフセットプログラム」を2022年1月より開始しています。

オカムラでは、国内の自社工場でオフィス製品を生産しており、原材料の購入、お客さまへの製品納入において効率的な輸配送を実施するとともに、工場で使用電力の再生可能エネルギーへの転換を進め、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。こうした取り組みの結果、削減できなかったCO₂排出量に関し、製造工程でのエネルギー使用量や製品に使用する材料の種類と量を厳密に管理することにより算出し、排出権を通じてオフセットしています。（関連 ▶P.21）

「カーボンオフセットプログラム」の流れ



「サーキュラーデザイン」に基づく 環境配慮製品の開発

オカムラでは、「サーキュラーデザイン」の考え方にに基づき、環境に配慮した素材の使用、部品や資材の削減、長期使用が可能な構造などを重視した製品開発を行っています。

モジュラーパネルシステム「RECONE（リコネ）」は、原料に再生PETを用いたフェルト材を、パネルの芯材や表面材に使用しています。最小単位のモジュールパネルで組み替えが可能のため、レイアウト変更やデスクの買い替え時などにパネルを組み替えて使用することにより、長期にわたり製品を使用することが可能です。また、製品の梱包方法を見直すことで梱包材を3分の1程度削減し、廃棄物の発生を抑制しています。ラウンジファニチュアコレクション「Phlox（フロックス）」のフロク

ステーブルは、施工性が高く単一素材に分解しやすいシンプルな4本脚構造で、成長時に針葉樹の40倍のCO₂を吸収する竹製の天板や、リノリウム*を使用した天板をラインアップしています。

ミーティングチェア「ena（エナ）」は、背と座のシェルの一体化や構造をシンプルにしたことで部品点数を減らし、資源消費やCO₂排出量の削減につなげています。

* リノリウム：亜麻仁油、ロジン、木粉、石灰粉、天然色素などの天然の原材料からできた素材



モジュラーパネルシステム「RECONE（リコネ）」



ラウンジファニチュアコレクション「Phlox（フロックス）」テーブル



ミーティングチェア「ena（エナ）」

TOPICS

廃漁網リサイクルファブリック「Re:net (リネット)」の開発

オカムラは「サーキュラーデザイン」の考え方にに基づき、廃漁網をリサイクルし家具の張地に生まれ変わらせることで海洋プラスチック問題への対応に貢献できないかという考えから、リサイクルファブリック「Re:net (リネット)」を開発しました。使用済み漁網をリサイクルした再生ナイロン「REAMIDE (リアミド)*」の糸と、再生PET糸を編み込んだニット素材で、タスクシーティング「Spher (スフィア)」、クリエイティブファニチュア「WORK CARRIER (ワークキャリアー)」のソファ、ラウンジファニチュアコレクション「Phlox (フロックス)」チェアなどの張地に使用しています。

「Re:net」は、「Red Dot Award : Product Design 2022」のMaterials and Surfaces 部門において「Red Dot (レッドドット・デザイン賞)」を受賞しました。

*「REAMIDE」: リファインバース社が日本全国で発生する廃漁網から作った再生ナイロン



リサイクルファブリック「Re:net (リネット)」

働き方の変化に対応した新製品の開発

働き方の多様化が進み、目的や必要に応じて働く場所を選択する柔軟な働き方が広がっています。オカムラは多様な働き方に対応したオフィス環境づくりのために、さまざまな製品の開発を行っています。

業種や職種によってはワーカーがオフィスに行くことが少なくなり、雑談や相談などのコミュニケーションの機会が減りつつある状況を踏まえ、相互のコミュニケーションをとりやすい環境づくりを可能にするクリエイティブファニチュア「WORK CARRIER (ワークキャリアー)」を開発しました。大型のアンカーテーブルに小型で動かしやすいサテライトユニットをフレキシブルに配置し、周りの空間と境界なくつながることで自然と人が集まる場となり、さまざまなコミュニケーションの形を生み出します。

また、オフィスなどの働く場では、共用スペースの増加やフリー

アドレスの導入により固定席が少なくなり、さまざまな人が同じイスを使用するケースも増えてきています。タスクシーティング「Spher (スフィア)」は、オカムラ独自の「3D フィジカルフィットシェル」により、座る人の体格に合わせて背もたれと座面が身体を包み込むように変形し、自然と身体にフィットするため、それぞれのワーカーが快適に仕事を行うことができます。



クリエイティブファニチュア「WORK CARRIER (ワークキャリアー)」



タスクシーティング「Spher (スフィア)」

これからの働き方を見据えたソリューションの提案

働き方改革やデジタルトランスフォーメーション (DX) の推進によりさまざまな領域でIoT化が進み、オフィスなどでは快適性や生産性を高める働き方が追求されています。また、テレワークの普及など、企業における働き方が大きく変わってきており、新しい働き方に対応した働く場の構築やマネジメントの刷新が求められています。

オカムラは、ワーカーのIDで座席や会議室の予約やオフィスへの入退出認証などを行うことができるデジタルトランスフォーメーションサービス「Work x D (ワーク・バイ・デイ)」の提案を行っています。ニューノーマルの働き方を支援するマネジメントシステムにより、働き方や働く場のDXを実現します。また、ウェブ会議の増加やオフィスのオープン化にともない、リモートによるコミュニケーションや集中作業に適したワークスペースのニーズが高まっており、「TELECUBE by OKAMURA (テレキューブ by オカムラ)」をはじめとしたさまざまなワークブースの提案を行っています。

Work x D
ワーク・バイ・デイ
design. work. digital. future



TELECUBE by OKAMURA
(テレキューブ by オカムラ)

「WELL PLUS」マークの設定

人が健康でかつ快適に過ごせる場であるかどうかを評価するシステムであるWELL 認証^{*}が、オフィス空間の評価基準として国際的に広がりを見せています。オカムラでは、WELL 認証の取得をサポートする製品に「WELL PLUS」マークをつけて提案し、お客さまのオフィス改善、オフィス構築を支援しています。

^{*} WELL 認証 (WELL v2 pilot) : 空間のデザイン・構築・運用に「人間の健康」という視点を加え、より良い住環境の創造をめざしたオフィス空間等の評価システム。総合得点によってプラチナ、ゴールド、シルバーの3種類にランク付けされる。米国の公益企業IWBI (The International WELL Building Institute) により2014年にスタートしたもので、2018年には評価項目や基準を見直したバージョン2 (WELL v2 pilot) がリリースされ、「空気」「水」「食物」「光」「運動」「温熱環境」「音」「材料」「こころ」「コミュニティ」という10個のコンセプトで評価される



WELL PLUS

「WELL PLUS」マーク

オフィス環境でのCMF (カラー・マテリアル・フィニッシュ) の提案

CMFとは、モノのサーフェイス (表面) を構成する3つの要素のことで、カラー (赤・青・黄などの色)、マテリアル (木・樹脂・金属などの素材)、フィニッシュ (光沢・マットなどの仕上げ) を指します。オカムラでは、ワクワクやドキドキを感じられるオフィス環境が、創造性を育み、効率性をもたらすとの観点から、オフィスが素材の力で感性を刺激する場所であることをめざしています。集中や活発なコラボレーション、リラックスなどそれぞれの行動にはそれぞれに適したCMFがあると考え、製品開発や空間構築に取り入れています。また、素材については、環境に配慮した素材を選択できるよう開発も行っていきます。

一人ひとりのワーカーが作業や目的に合った場所を選び、のびのびと働ける「はたらき心地」のよい空間をCMFの視点から提案しています。



CMF
<https://www.okamura.co.jp/product/cmfi/index.html>

ビル清掃の効率化を支援する 自動搬送ロボットの開発

ビルの清掃作業においては、広い面積の床を掃除する必要があり、人員や労力・時間がかかることから、掃除ロボットを導入するケースも増えています。しかし、掃除ロボットでは壁際に近づくことが難しく掃除が十分に行えないため、人の手による作業が必要となり、また、業務用掃除機に比べて吸い込みが弱いという課題があります。

オカムラは、市販の業務用乾式掃除機を搭載し、自律走行して床掃除を行う自動搬送ロボット「STRIVER (ストライバー)」を開発しました。「STRIVER」は、壁際1cmまで接近して掃除を行うことが可能で、業務用乾式掃除機を利用するため吸い込み能力を保ったまま掃除ができ、ビル清掃の効率化に貢献します。



クリーニングロボット「STRIVER (ストライバー)」

働く人にやさしい店舗づくり

スーパーマーケットやドラッグストアでは、タイムリーな商品補充や、季節・イベント・新商品の発売に合わせた商品の入れ替えなどの商品陳列作業が行われます。しかし、商品補充や陳列は店内作業の中でも特に時間がかかり、店舗スタッフの体力的負担が大きい業務でもあります。

オカムラでは、店舗で働く人の作業負担軽減に向け、陳列棚や冷凍冷蔵ショーケースの「スライド棚」のラインアップを充実させています。棚板を引き出しのように手前に引き出せる機構が、無理な体勢での補充作業を解消し、重量物の陳列にとまなう負担を軽減します。

来店するお客さまはもとより働く人の快適性を重視し、作業環境の改善や業務の効率化につながる店舗づくりを支援していきます。(関連 [▶ P.13](#))



スライド棚

物流現場の自動化・省人化に向けた ソリューションの提供

物流現場では、取り扱う商品の増加や多様化、人手不足などに対応するため、自動化・省人化が進められています。

オカムラは、パレットストレージシステム「CYBISTOR (サイビスター)」と三菱ロジスネクストのレーザー誘導方式無人フォークリフト「PLATTER Auto (プラッターオート)」を連動させた無人化物流ソリューションを製品化しました。無人走行の「PLATTER Auto」が、パレットを「CYBISTOR」のラックに入庫し、ラック内ではシャトルがレーンの最奥部まで搬送、格納します。

また、「CYBISTOR」の新モデルとして、前後左右に走行するシャトルと、リフターを組み合わせることで、パレット品の高密度保管、荷繰り作業の完全自動化を実現する「CYBISTOR II (サイビスター 2)」を発売しました。オカムラでは業種・業態に合わせた最適なシステムを提案しており、物流現場の自動化・省人化に貢献しています。



「CYBISTOR (サイビスター)」と「PLATTER Auto (プラッターオート)」のソリューション



「CYBISTOR II (サイビスター 2)」のシャトル

社会からの評価

オカムラグループは、ものづくりにこだわり、お客さまに満足いただける製品を社会に送り出してきました。機能性や安全性、耐久性、信頼性などと同時に外観の美しさを重視し、製品のあるべき姿を追求する、という開発に対する姿勢は国内外で高く評価され、これまでに数々の表彰や選定を受けています。2021年度も多くの製品が国内外の表彰制度等において高い評価を受けました。

キッズデザイン賞*

第15回キッズデザイン賞 子どもたちを産み育てやすいデザイン部門 受賞
(2021年8月)

- パーティションシリーズ「Cuddly(カドリー)」

* キッズデザイン賞：特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催。「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会に発信していくことを目的に2007年に創設された



グッドデザイン賞*

2021年度 グッドデザイン賞 受賞
(2021年10月)

- オフィスシーティング「CYNARA(シナラ)」
- ゲームングファニチュア「STRIKER(ストライカー)」
- オフィスデスク「REGAS(リーガス)」
- マルチワークブース「co-comori(ココモリ)」
- デザインテーブルシリーズ「nel(ネル)」
- アクティブムーブチェア「Weltz(ウェルツ)-EV」

* グッドデザイン賞：1957年に創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組み。公益財団法人日本デザイン振興会が主催し、デザインを通じて産業や生活文化を高める運動として、国内外の多くの企業やデザイナーが参加している



DFA Design for Asia Awards*

DFA Design for Asia Awards 2021 Merit Award 受賞 (2021年10月)

- オフィスシーティング「CYNARA(シナラ)」

* DFA Design for Asia Awards：香港デザインセンター（Hong Kong Design Centre）の主催により2003年から実施されている国際的なデザイン賞。デザインの卓越性をたたえ、アジアの視点で優れたデザインを表彰するプログラム



“超”モノづくり部品大賞*

2021年“超”モノづくり部品大賞 生活・社会課題ソリューション関連部品賞 受賞
(2021年11月)

- オフィスデスク「REGAS(リーガス)」

* “超”モノづくり部品大賞：モノづくり日本会議、日刊工業新聞社が主催し、日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下の力持ち」的存在の部品・部材を対象に表彰を行う制度。2003年に「モノづくり部品大賞」として創設され、2008年から現名称となり、「機械・ロボット」「電気・電子」「モビリティ関連」「環境・資源・エネルギー関連」「健康福祉・バイオ・医療機器」「生活・社会課題ソリューション関連」の6分野が表彰対象となっている



JIDA デザインミュージアムセレクション*

JIDAデザインミュージアムセレクション vol.23 選定 (2021年12月)

- オフィスシーティング「CYNARA(シナラ)」

* JIDA デザインミュージアムセレクション：公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会（JIDA）が実施している事業で、「美しく豊かな生活を目指して」をテーマに、インダストリアルデザインが社会に寄与する質の高い製品を選定し表彰するとともに、製品を収集保管して次世代に伝え、教育、産業、生活への文化的貢献を行うことを目的とする



GOOD DESIGN*

GOOD DESIGN 2021 (Furnitureカテゴリー) 受賞 (2022年1月)

- オフィスデスク「REGAS(リーガス)」
- マルチワークブース「co-comori(ココモリ)」
- デザインテーブルシリーズ「nel(ネル)」

* GOOD DESIGN：The Chicago Athenaeum：Museum of Architecture and Design（シカゴ・アテナイオン建築・デザイン博物館）の主催により1950年から始まった、世界で最も歴史の長い国際的に権威のあるデザイン賞。革新的なデザイン、新技術、フォルム、素材、アーキテクチャ、コンセプト、機能、審美感などの面から専門の審査員によって審査が行われる

Red Dot Award: Product Design*

Red Dot Award: Product Design 2022 Red Dot: Best of the Best 受賞 (2022年3月)

【Office Furniture and Office Chairs部門】

- クリエイティブファニチュア「WORK CARRIER (ワークキャリアー)」



reddot winner 2022 best of the best

Red Dot Award: Product Design 2022 Red Dot 受賞 (2022年3月)

【Materials and Surfaces部門】

- オカムラが開発したサステナブルなファブリック「Re:net(リネット)」



reddot winner 2022

【Office Furniture and Office Chairs部門】

- モジュラーパネルシステム「RECONE(リコネ)」

【Communication Technology 部門・ Innovative Products 部門】

- ポータブルバッテリー「OC(オーシー)」

* Red Dot Award：Product Design：ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンターより1955年に創設された国際的に権威あるデザイン賞の一つ。51の部門別にエントリーでき、さらにメタカテゴリーとして Smart Products 部門と Innovative Products 部門へのエントリーが可能。革新性、機能性、品質、人間工学などのさまざまな側面から審査が行われ、特に優れている製品には「Red Dot：Best of the Best」が授与される

iF デザインアワード*

iFデザインアワード2022 受賞

(2022年4月)

- オフィスシーティング「CYNARA(シナアラ)」
- デザインテーブルシリーズ「nel(ネル)」

* iFデザイン賞:iF International Forum Design GmbHが主催している、毎年全世界の工業製品の中から優れた工業デザインに与えられる世界的な権威のある賞



UNIVERSAL DESIGN COMPETITION*

UNIVERSAL DESIGN EXPERT 2022

受賞 (2022年5月)

- ポータブルバッテリー「OC(オーシー)」

* UNIVERSAL DESIGN COMPETITION: ドイツのInstitute for Universal Designが主催し、誰もが使いやすいというユニバーサルデザイン面での優れた特徴に加えて、革新性や市場性なども加味して受賞製品が選定される。審査はユニバーサルデザインの専門家グループと一般消費者100名が行い、それぞれ「UNIVERSAL DESIGN EXPERT」と「UNIVERSAL DESIGN CONSUMER」を選定



ウェブサイト「Make with オカムラのものづくり」では、オカムラのものづくりにおける企画・研究・リサーチ、デザイン、製造の過程や様子、さまざまな製品の開発に至る経緯や想いが語られる「Product Story」、受賞したアワードと製品の一覧「Award」などを掲載しています。

 Make with オカムラのものづくり
<https://www.okamura.co.jp/company/products/makewith/>

TOPICS

BCP 対策にも使用可能なポータブルバッテリーの開発

仕事の内容に合わせて時間や場所を選んで働く「Activity Based Working (ABW)」やコミュニケーションの活性化を目的に、柱や仕切りの少ないオープンオフィスが広がりを見せています。一方、オープンオフィスでは、パソコンをはじめさまざまなデバイスを使用するための電源コンセントの数が限られていることも多く、追加で設置する場合、配線工事などが必要となりコストもかかります。

オカムラはこうした状況やニーズに応えるため、デバイスの使用に必要な電力量を十分に充電でき、持ち運びが可能なバッテリー「OC(オーシー)」を開発しました。「OC」は、満充電でノートPCでは3.5回分、スマートフォンでは14回分を給電することが可能です*。また、災害発生時には非常電源として使用できるため、BCP対策としても活用できます。こうした特性から「OC」は、商品やサービスが日常時および非常時の価値を共に有していることを証明するフェーズフリー認証を受けています。

また、「OC」は「Red Dot Award: Product Design 2022 (レッドドット・アワード プロダクトデザイン 2022)」のCommunication Technology部門とInnovative Products部門において「Red Dot (レッドドット・デザイン賞)」を受賞、「UNIVERSAL DESIGN COMPETITION」において「UNIVERSAL DESIGN EXPERT 2022」を受賞しました。

* ノートPCは50Wh、スマートフォンは12Whの容量を想定



ポータブルバッテリー「OC(オーシー)」

イノベーションの推進と新しい価値の創造

重点課題

オカムラグループは、オカムラウェイの中で「人を想い、場を創る。」を掲げ、さまざまな施設に優れた製品とサービスを提供することで、快適で創造性や効率性が高く健康に過ごせる最適な空間を提案しています。また、新たな視点から、働くことに関する調査・研究を行うとともに、共創による事業の創出や情報発信を通して、新たな価値を創造していきます。

イノベーションの推進

スタートアップ企業を支援する事業を行う 新会社を設立

オカムラは株式会社ボーンレックスと共同で、2021年11月12日に株式会社NovolBaを設立しました。株式会社NovolBaは、創業から成長拡大期のスタートアップ企業のオフィス移転を最小限の手間と費用で実現する家具付きオフィスおよび周辺サービスのサブスクリプション事業を行っています。

オカムラでは、2020年4月にWaaS (Workplace as a Service) プロジェクトを発足させ、新規事業立ち上げの支援を行うボーンレックスと共同で、スタートアップ企業の成長ステージによって変化する課題に合わせて最適なワークプレイスを提供する「NovolBa (昇る場)」事業を、実証実験として進めてきました。実証実験を通して、スタートアップ企業がオフィスを構築する際の課題やサービスへの感想・意見を収集してニーズを分析し、さらなるサービスの充実に向け新会社を設立しました。最適なオフィス環境の提供を通じて、スタートアップ企業の成長を支援していきます。

3Dプリンターで製作する バイオマスプラスチック素材の家具「Up-Ring」

オカムラは、慶應義塾大学SFC研究所ソーシャル・ファブリケーション・ラボ*と共同で、3Dプリンターで製作する環境素材のオフィス家具デザイン「Up-Ring」プロジェクトを進め

ています。このプロジェクトは、3Dプリンティング技術、バイオマスの単一材料などの技術利点を最大限生かすことを考えたデザインの研究開発を目的としています。

3Dプリンターによる製品の生産は、製造時材料や電力の消費、騒音の発生を抑制でき、金型が不要なため生産準備段階での費用削減が可能です。また、単品でも効率的に生産を行うことが可能です。

材料となるバイオポリエチレンは、サトウキビを原料としています。サトウキビは生育過程でCO₂を吸収(固定)するため、石油化学系ポリエチレンに比べてCO₂発生量を70%削減され、地球温暖化の抑制に貢献します。

* 国立研究開発法人科学技術振興機構センター・オブ・イノベーション (COI) プログラムの終了に伴い2022年3月末で解散・終了し、現在は「SFC 研究所 環境デザイン&デジタルマニュファクチャリング共創ラボ」が発足され、プロジェクトを継続している



Up-Ring ローバックチェア



3Dプリンターでの製造の様子

VOICE

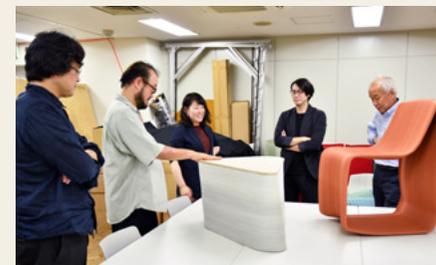


慶應義塾大学 環境情報学部教授、
慶應義塾大学 KGRRI 環境デザイン&
デジタルマニュファクチャリング
創造センター センター長

田中 浩也 様

産学連携による 新たなコンセプトのチェア開発

慶應義塾大学SFC研究所で長年研究開発を行ってきた、バイオプラスチックを大型3Dプリンターで立体化する基盤技術に、オカムラがその専門性をもって加わることで、新しいコンセプトに基づくチェアを共同開発・製品化することができました。この取り組みは、産学連携の模範的なかたちとして内外から評価をいただいています。しかし、分散型製造、使用後回収サービスの設計、バイオ材料の国産化など、脱炭素へ向けたものづくりの革新はまだまだ終わることなく続いていきます。新たな種を社会実装につなげていく持続的なパートナーとして、これからも共創を続けていきたいと考えています。



未来のオフィス point 0 プロジェクトでの協創

オカムラが2019年より参画している協創プラットフォーム「CRESNECT(クレスネクト)」では、未来のオフィス空間を実現していくことを目的とするpoint 0プロジェクトとして会員型コワーキングスペース「point 0 marunouchi」を運営しています。「point 0 marunouchi」にはさまざまな業種の企業20社(2021年11月時点)が参画しており、オープンスペースや会議室、仮眠ブースなどにおいて、各社の最新技術やデータ、ノウハウを活用し、多様な働き方に合わせたソリューションを導入しています。

オカムラはダイキン工業株式会社と共同で、「point 0 marunouchi」における協創を通じた初の商品化となる「ウィンドユニット」を開発しました。「ウィンドユニット」は、軽井沢の自然の風の測定データをもとに、オフィスの中で体全体を吹き抜ける「ゆらぎ」のある風を再現する大型送風機です。ダイキン工業の自然の風を再現する大型送風機「Wind Creator」をベースに、オカムラが開発する家具シリーズ「Lives(ライブス)」のシェルフに組み込み、オフィス利用者の声を集めながら両社の協創を通じて開発を進めました。

今後も「point 0 marunouchi」での実証プロジェクトを通じて、空間における新たな価値の創出をめざします。



自然の風を再現する「ウィンドユニット」

ウイルス、細菌を不活化する技術を活用した家具の製作

新型コロナウイルスの感染拡大に対して生活のさまざまな場面における対応が求められる中、オカムラは、照明デザイナーの石井リーサ明理氏と石井幹子氏が企画・デザイン・プロデュースした2つの家具を製作しました。

「LILIO(リリオ)」は、優しいオリジナルな明かりをともしフロアスタンドタイプのライトオブジェ兼コート掛けで、製品内部にマスクやスマートフォンなどの小物を収納できます。「OVIRUS(オヴィルス)」は靴を収納できるベンチ、ツールです。家具の収納部分には、スタンレー電気株式会社の技術を活用した深紫外線光源を内蔵しており、この光源によりウイルスや細菌を不活化します。

これらの製品は、2021年9月にフランス・パリで開催された「メゾン・エ・オブジェ・パリ2021年9月展」に出展され、多くの来場者に関心を持っていただきました。



「LILIO(リリオ)」



「OVIRUS(オヴィルス)」

遠隔コミュニケーションサービスを用いた実証実験

働く場や働き方が多様化する中で、オフィスは、それぞれのワーカーが自らの業務を行う場という位置づけよりも、職場のメンバー間の対話や合意形成など、目的を持ったコミュニケーションをとる場所としてのニーズが高まっています。

オカムラでは、働く場の分散化や多様な働き方に関する研究の一環として、tonari株式会社の遠隔コミュニケーションサービス「tonari(トナリ)」を利用した実証実験を行っています。「tonari」は、大きなスクリーンに映し出された等身大の相手とリアルタイムでつながることができるコミュニケーションサービスです。遠隔地のオフィスをつなぎ、あたかも相手が隣にいるかのような臨場感を持ったコミュニケーションを可能にします。実証実験では、同じ部署内のメンバーが2つの拠点で業務を行っているケースを主な対象とし、朝会、勉強会、1on1等を「tonari」を通して行っています。遠隔で働くワーカー間のフォーマル・インフォーマルなコミュニケーションの機会を増やすことで、より働きやすい環境の創出とチーム力の向上をめざしています。



遠隔地のオフィスをつなぎ臨場感を持ったコミュニケーションを可能にする

TOPICS

釜石市ワーケーション
事業プロジェクトへの参画

地方創生とこれからのワークスタイルの研究・提案を目的として、オカムラは2021年10月に、岩手県釜石市、株式会社かまいしDMC、日鉄興和不動産株式会社と「釜石市におけるワーケーション事業の実施に向けた包括連携協定」を締結しました。

本協定に基づく取り組みのひとつとして、新たなワーケーション施設「Nemaru Port（ねまるポート）」を開設しました。首都圏のワーカーの利用を想定し、既存オフィスやシェアオフィスを補完するサービスとして、地方サテライトオフィスでの可能性を研究します。また、施設開設とあわせて展開するワーケーションプログラムを通じて、釜石ならではの体験（自然体験、食文化体験、地域貢献、研修等）や釜石市のさまざまな人・団体等との連携により、ワーカーや企業の新たなイノベーションやビジネスチャンスを創出し、地方創生に寄与していきます。



ねまるポート施設内の様子

VOICE



オフィス環境事業本部 事業戦略部

岸 杏奈

「ワーク」と「バケーション」の概念を変えた
釜石ワーケーション体験プログラム

釜石市に開設されたワーケーション施設「Nemaru Port」の今後の活用、ワーケーションの社内制度化や顧客提案の可能性を検討するために、3日間のワーケーション体験プログラムに参加しました。このプログラムでは、「Nemaru Port」での個人ワーク、エヌエスオカムラ訪問、東日本大震災で大きな津波被害を受けた鶴住居地区での研修、SDGsに関するワークショップ、甲子町での林業体験を行いました。プログラム参加前は、「ワーク」と「バケーション」には明確な区分があり、旅先でうまく仕事と遊びの時間配分を調整することが「ワーケーション」だと捉えていました。しかし実際に体験してみると、遊びの要素から仕事につながる発想が生まれることもあり、「ワーク」と「バケーション」には明確な境界線がないと感じるようになりました。

また、今回訪れた釜石は観光地やリゾート地ではないため、普段はなかなか訪れる機会がありません。しかし、釜石がオカムラとの縁がある場所だったからこそ、すべての物語や体験を自分ごととして捉えることができました。自分の会社のルーツを探る、日本人にとって忘れてはならない出来事を振り返るなど、単純なリフレッシュや遊びだけじゃない「学び」を得られることも、ワーケーションの魅力のひとつだと思います。このプログラムを通してたくさんの仕事や暮らしに触れたことも、自らの仕事や働き方を客観視するきっかけになりました。ワーケーションには、個人の価値観を変えるだけのパワーがあると思います。働くことは生きること、そして生きることは働くこと、まさに「Work in Life」を実感した3日間になりました。



釜石ワーケーション体験プログラム参加者

店舗の競争力強化と店舗スタッフの働きやすさの両立をサポート

社会環境や市場の変化にともない小売業の競争が激しさを増す中、小売店には人手不足や店舗スタッフの高齢化・多様化に対応しつつ、接客をより重視した効率的かつ魅力的な店舗づくりが求められています。

オカムラは、小売業としての競争力強化とスタッフの働きやすさを両立できる店舗づくりを支援するために、Telexistence株式会社と資本業務提携を締結しました。Telexistence株式会社は、店舗スタッフが常駐することなく、店舗内に設置された遠隔操作ロボットをインターネット経由で操作し、在宅で商品陳列などの作業を行うことを可能にする技術の開発と実装を進めています。オカムラは、人とロボットが動きやすい店内レイアウトや人とロボットの作業比率に最適化された空間の使い方、遠隔操作ロボットの動きに最適な機能や形状の陳列棚・ストック仕器の開発など、ロボットと店舗スタッフが協働して業務を行うことを考慮した店舗設計の研究と製品開発をしています。

店舗スタッフの単純作業の大幅な削減と、業務における体力的な負担の軽減により、接客や人材育成などの時間を創出し、店舗の競争力強化と働きやすさの両立をサポートします。



ロボットによる陳列の様子

物流現場の新しい働き方を創造する事業への取り組み

オカムラは、物流施設において、AIを搭載したロボットと遠隔操作技術を組み合わせ、ピッキング作業の自動化と遠隔操作により、場所と時間にとらわれない新しい働き方を創造する「PROGRESS ONE (プログレスワン)」の事業化に向けた取り組みを進めています。(関連 [▶P.15](#))

「PROGRESS ONE」は、双腕のピッキングロボットとオペレーターが操作する遠隔操作システム、機械学習を備えたAIで構成されています。双腕のピッキングロボットは、吸着と多指ハンドを対象物に合わせて使い分け、蓋つきの箱など単腕のロボットでは難しい対象物も、両腕を使ってつかみ上げることが可能です。遠隔操作システムは、自律ピッキングから遠隔操作に切り替わる際のマッチング機能を備えており、遠隔操作時は、オペレーターが簡単に操作できるモードを複数用意しています。

さまざまな対象物に対応できるロボットハンドや対象物検出技術、動作計画策定に関わるAIの技術開発パートナーや実証実験パートナーとの連携を行い、事業化を進めています。



開発中の双腕ピッキングロボット

働き方・働く場に関する調査・研究と 情報発信

社会構造の変化や技術の進歩、ライフスタイルの多様化などを背景に、働き方や働く場のあり方、生活における仕事の位置づけなどを見直す動きが広がっています。オカムラではこうした状況を踏まえ、新たな視点から、働くことに関する調査・研究を行うとともに、さまざまな企業、学生など広範な分野の人との連携や情報発信を進めています。

働き方・働く場に関する 調査結果・レポート・書籍の発行

オカムラでは、1980年より働き方や働く場に関する研究機関を設け調査・研究を続けています。社会の動向や人々の意識の変化をとらえ、その中から研究テーマを設定し、大学や研究機関などさまざまな専門分野の研究者と連携しながら一歩先の働き方と働く場を探求しています。研究結果や知見は、各種学会や研究会、研究冊子・ウェブサイト「KNOWLEDGE」などを通して、広く社会に発信しています。

2020年から続くコロナ禍によって、在宅勤務を中心としたテレワークが多くのワーカーにとって身近なものとなり、働き方に大きな変化が起きている。オフィスに集まって業務を行うことの必要性が問われるなか、オカムラが蓄積した多様な研究データをもとに「はたらく距離感」に関する調査結果をまとめた『KNOWLEDGE-WORK DESIGN REVIEW 2021』を2021年11月に発行しました。

また、2020年より定期的に行っているコロナ禍の中での働き方に関するアンケート調査結果を「働き方・働く場の変化に関する調査 2021 データ集」として2021年12月に公開しました。

2022年4月に発刊した書籍『エシカルワークスタイル 自分にも人にも優しい働き方を考えてみる』では、これからの働き方・働く場について、「健康」「利他・ダイバーシティ」「地球環境」の3つの視点によって生み出される「エシカルワークスタイル」が、今後の豊かな社会を支え環境負荷低減に寄与する有効な手段であることを提唱しています。



『KNOWLEDGE WORK DESIGN REVIEW 2021
～はたらく距離感～』(2021年11月)



『エシカルワークスタイル
自分にも人にも優しい働き方
を考えてみる』(2022年4月)

「WORK MILL (ワークミル)」の活動

オカムラは、働き方や働く場をさまざまなステークホルダーと共に描き、「はたらく」を変えていくことを目的として、「WORK MILL」の活動を推進しています。「WORK MILL」という活動名には、これまでの当たり前にとらわれず、「さまざまな視点で(見る)」、「価値を挽き出す(MILL)」の2つの意味を込めています。多様な人たちとのオープンな共創プロセスのもと、「すぐに見られる」ウェブマガジン、「手に取れる」雑誌・冊子、「訪ねに行ける」共創空間を中心に活動を展開しており、共創による価値創造や、目的や志を共有できるコミュニティづくりをめざしています。

この活動は、「2019年度グッドデザイン賞」を受賞しています。

WORK MILL

共創空間での活動

オカムラは「はたらく」をテーマとした共創空間として、Open Innovation Biotope“Sea”(東京)、“Cue”(名古屋)、“bee”(大阪)、“Tie”(福岡)の4カ所を開設、運営しています。ウェブサイトなどでイベント情報を公開し、誰でも参加できる場としての機会提供のほか、お客さまや地域の方、学生などさまざまな方の課題解決や価値創造のニーズに応える共創活動を行っています。



<https://sea.workmill.jp/>



<https://cue.workmill.jp/>



<https://bee.workmill.jp/>



<https://tie.workmill.jp/>

働き方改革につながる支援を目的として、「はたらく」を中心とするテーマでイベントやワークショップなどを開催しており、社内企画だけでなく外部企画の共催・協力など、外部のパートナーとも連携して活動を進めています。2021年度はオンラインを中心にイベントを開催し、共創空間を開設している地域以外の多くの方にもご参加いただきました。また、対面で開催したイベントやワークショップでは、参加者同士の共創の輪を広げることができました。

TOPICS

企業のSDGsへの取り組みを考えるイベントを開催

共創空間Open Innovation Biotope “bee”では、SDGsに向けた取り組みについて企業の実践事例から学ぶイベントを開催しました。パナソニックグループの新規事業チーム・タネノチカラに協力いただき、オンラインセミナー2回と兵庫県淡路島での体験イベントを実施しました。

オンラインセミナーでは、SDGsの実現の重要性について理解を深める講義や、パナソニックグループとオカムラそれぞれの取り組みを紹介しました。体験イベントでは、タネノチカラのSDGs実践の場「タネノチカラ淡路島Seedbed」にて、社会を変えていこうとする事業とSDGsのつながりを体感するプログラムを実施し、自分たちの生活と土、ひいては地球とのつながりについて見つめ直しました。SDGsにどのように取り組むかも重要ですが、それ以上に私たちの普段の生活のあり方や働き方が重要であり、「Be SDGs」な生き方を選択することの大切さをじっくりと体感する機会となりました。



オンラインセミナーの様子



「タネノチカラ淡路島Seedbed」でのフィールドワーク



さまざまな環境の構築と提案

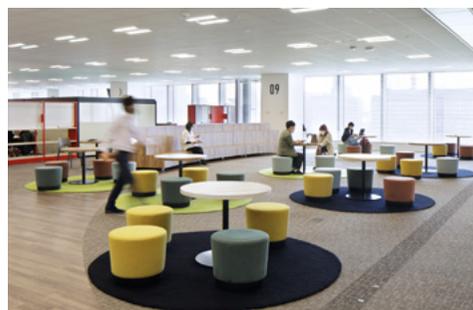
働き方に合わせた「ライトサイジング」の提案

新型コロナウイルス感染症の流行・拡大の影響などによってテレワークが広がったことにより、出社を前提とした従来の働き方が変化し、オフィスの稼働率が低下傾向にあります。これからの時代のオフィスは、稼働率とコストのバランスを取りつつ、ワーカーがそれぞれの業務を行うための場から、対面によるコミュニケーションを行うための場へと重点のシフトが求められています。こうした視点に立ったアプローチとして、オフィスに必要な機能を満たしつつ、必要な広さに適正化する「ライトサイジング」の提案を行っています。（関連 ▶ P.11）

株式会社ぐるなび様の本社オフィスでは、単にオフィスの固定費を削減する「ダウンサイジング」ではなく、「ライトサイジング」の考え方を取り入れた改装を行いました。

同社では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、それまで段階的に進めてきたテレワークと時差出勤を活用した働き方を、本社を含む全営業所を対象にスタートしました。本社オフィスとして東宝日比谷ビルの4フロア、本社分室として東京ミッドタウン日比谷の1フロアを使用していましたが、本社オフィスを1フロアに削減するとともに、本社分室オフィスの大規模な改装を行いました。

今回の改装では、目的や業務内容に応じてさまざまな場を選びながら働くことで、「はかどらせる・仕上げる」「出会う」「繋がる・深める」「感じる・伝える」「調べる」「創る・膨らませる」「学ぶ・育てる」の7つのワークエクスペリエンス（体験）の実現を図りました。最終的にオフィス全体で面積を約50%、座席数を75%削減する一方、自由に使える共用スペースを増やし、テレワークの継続とあわせ多様な働き方が可能な空間を創出することができました。



株式会社ぐるなび様の改装後のオフィス

大学・専門学校でのワークブースの活用

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大学生や専門学校生の就職活動において、オンラインによる面接が行われるケースが増えています。学生からは自宅では面接に集中できる環境を確保できないといった声も聞かれ、大学や専門学校

では、学生が不安を感じることなく就職活動に専念できる環境を提供するため、ワークブースを導入し活用する事例が増えています。

龍谷大学様、麗澤大学様、大阪市立大学（現：大阪公立大学）様、学校法人山口学園 ECC コンピュータ専門学校様では、オンラインによる面接を受けるための専用ブースとして「テレキューブ by オカムラ」を導入いただいています。面接に必要なパソコンやライト、カメラ、有線LANなどを設置するとともに、模擬面接をオンラインで実施し、オンライン特有の画面映りや声の大きさ、視線を確認して心理的な不安をなくすなどの取り組みがなされています。

また、大学などでは会議やガイダンス等がオンラインで行われることが増えており、以前からオカムラのワークブース「SnowHut（スノーハット）」を導入いただいていた國學院大学様では、教職員のオンライン会議を行う場所として使用されています。青山学院大学様では「テレキューブ by オカムラ」4人用を導入いただき、オンラインガイダンスや個別相談を行う場所として使用するなど、さまざまな形でワークブースを活用いただいています。



ECC コンピュータ専門学校様に設置の「テレキューブ by オカムラ」

安全で高品質な製品・サービスの提供

重点課題

オカムラグループは、安全で高品質な製品・サービスの提供により、お客さまの満足度の向上をめざします。

顧客満足度の向上に向けて ～オカムラの品質への考え方

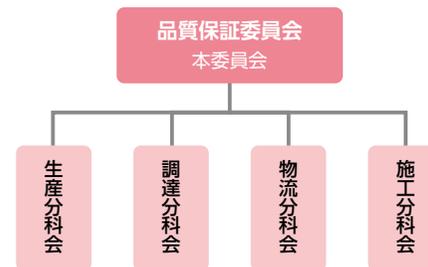
オカムラグループは、「安全な製品・サービスの提供」をサステナビリティ重点課題とし、お客さまの満足度の向上につながる製品・サービスを提供することをめざします。品質向上に向け全社的な推進体制を構築し、品質マネジメントシステムの運用や評価体制の整備を通じて品質管理の徹底を図り、安全で高品質な製品の提供に努めています。（関連 ▶ P.32 ）

安全・品質に関する マネジメント体制

オカムラグループでは、調達から生産、物流、施工まで一貫した品質活動を推進しています。各部門において品質課題に取り組むとともに、部門間の連携を強化し、さらなるレベルアップを図ることを目的に、全社的な推進組織として品質保証委員会および分科会を設置し、サプライチェーン全体を通じた品質の向上に努めています。

また、品質に関してお客さまから寄せられたご要望に的確に対応するために、部門間で情報を共有して改善活動を展開し、お客さまの満足度向上につなげています。

品質保証委員会の組織図



国際品質保証規格ISO9001による 品質マネジメントシステムの運用

オカムラグループの事業分野全体における製品品質の継続的な向上を図るため、海外を含めた各生産事業所においてISO9001*の認証を取得し、同規格に基づく品質マネジメントシステムを構築・運用しています。

品質マネジメントシステムの運用にあたっては、ステークホルダーの皆さまから寄せられた数々のご意見を企画から設計、製造の各段階に反映させ、製品の機能性・安全性・耐久性を評価しながら、継続して品質の向上に取り組んでいます。

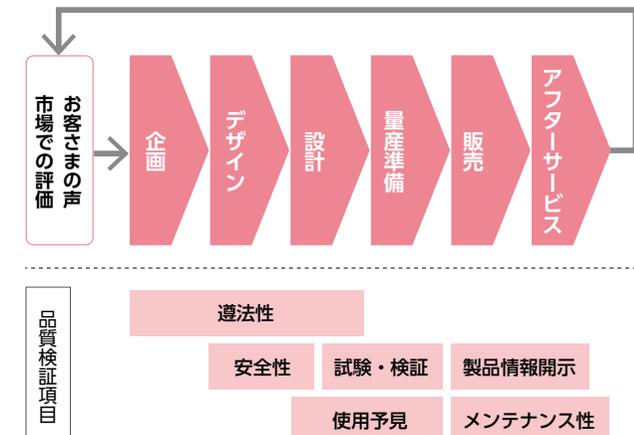
また、製造工程における高い品質水準を支える技能を確保、向上を図るための社内資格制度の整備や、必要なノウハウを共有するためのデータベース構築等により、お客さまに満足いただける製品を確実に提供するための体制を整えています。

* ISO9001：国際標準化機構（ISO）が定める品質マネジメントシステムの国際規格

品質向上に向けた各プロセスの標準化

オカムラグループでは、製品の企画、設計、製造販売、アフターサービスまで、製品開発のプロセスを標準化し、お客さまの声を取り入れ、安全性と品質についての厳格な審査、検証を行っています。お客さまのさまざまな使い道を想定した試験、予見検証を綿密に行い、高い品質レベルを確保しています。

製品開発のプロセス



品質管理教育

オカムラグループ全体として品質管理を徹底し、顧客満足度を向上させていくためには、一人ひとりの従業員が製品およびサービスの安全性と品質の重要性、企業としての責任に対する認識を高め、それぞれの業務において実践していくことが重要です。

品質意識の浸透醸成と管理能力の向上を目的とし、技能職向け品質基礎教育、管理職向けQC(品質管理)実践教育等を行っています。

品質教育一覧

種別	対象	名称	内容
必修教育	新入社員	技能職新人コース	● 作業標準化の重要性 ● 品質バラツキの理解
		技能職 1年目フォロー研修	● 日常管理、品質管理の基礎
	入社2、3、4年目	技能職 2年目フォロー研修	● 日常管理、品質管理の基礎の復習 ● 現場力の養成
管理者教育	管理職候補	初級リーダー育成コース	● 品質の原理原則の習得 ● 標準化の重要性
	班長・職場長	QC 実践コース	● QC7つ道具の活用法 ● 社内標準化の手法
QMS 教育	全従業員	QMS 基礎教育	● QMS の概要 ● QMS の重要性理解
	管理職	内部監査員養成教育	● QMS 内部監査員の養成 ● 監査の進め方
	内部監査員	内部監査前教育	● QMS 内部監査実施前の教育 ● 監査重点ポイントの周知

ものづくりを支える人財育成

オカムラグループは、生産現場でのものづくりを支える優れた人財の育成に向け教育訓練体制を整備し、長年にわたって培ってきた高度な技術・技能の継承に努めるとともに、従業員の資格取得も重視し、全体のレベルアップを図っています。

技術技能訓練センター

高品質な製品の根幹を支える優れた人財を育成するために、2011年に技術技能訓練センターを開設し、各種プログラムを通じてものづくりに携わる従業員の教育を行っています。

受講者数は年間約300名にのぼり、対象となる従業員は通常の業務から完全に離れて集中的に教育を受けます。例えば、基礎技能分野の「リーダー育成コース」は、ものづくりにおける精度・品質を確保するための原理原則について、2カ月間かけて習得するカリキュラムとなっています。熟練の講師陣から直接指導を受けることができるため、ものづくりに取り組む姿勢も学ぶことができ、現場力の向上につながっています。

技術技能訓練センターでは、新入社員研修から始まり、入社4年目までのフォローアップコース、各専門技能訓練コース、各実践管理技術コースなど、実務経験や職務に応じた教育訓練カリキュラムを実施しており、生産部門のさまざまな領域における人財のレベルアップにつなげています。

技術・技能の継承

各生産事業所では、ものづくりに必要な高度な技術・技能の継承に努めています。生産活動が安全かつ円滑に行われるとともに、製品の品質を維持・向上させるために、各職場でスペシャリストを育成しています。

「現代の名工」による技術・技能の継承

技術技能訓練センターの畑岡耕一は、1966年に入社して以来、オフィス家具の試作や設計業務に従事。業界初となる軟質発泡ウレタン表皮一体成形工法を確立するなど、日本のオフィスチェアの機能やデザインの向上のために力を注いできました。その功績が認められ、2016年に「卓越した技能者（現代の名工）」*1として表彰されました。現在も後進の育成に情熱を注ぎ、ものづくりの技能を継承しています。

また、厚生労働省の若年技能者人材育成支援等事業（ものづくりマイスター制度）*2に基づく「ものづくりマイスター」にも認定・登録されており、学生のみならず工業高校の教諭の方々にも技術の指導を行ってきました。今後も、オカムラが培ってきた技能や社内の人財の優れた能力、経験を生かしながら、若年技能者の育成に貢献していきます。

- *1 「卓越した技能者（現代の名工）」表彰制度：技能者の地位と技能水準の向上を図ることを目的として、卓越した技能を持ち、その道で第一人者と目されている技能者を厚生労働大臣が表彰する制度
- *2 若年技能者人材育成支援等事業（ものづくりマイスター制度）：ものづくりに関して優れた技能、経験を有する者を「ものづくりマイスター」として認定・登録し、「ものづくりマイスター」が技能競技大会の競技課題などを活用して中小企業や学校などで若年技能者への実践的な実技指導を行い、効果的な技能の継承や後継者の育成を行う事業



「現代の名工」畑岡による指導の様子

国家技能検定資格取得の強化

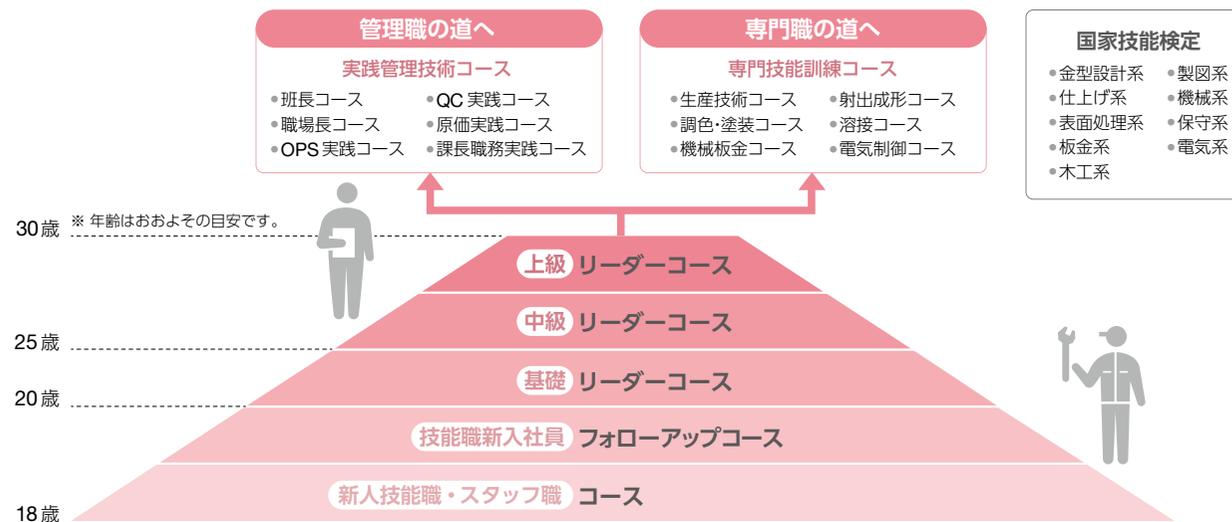
オカムラグループでは、従業員の国家技能検定の取得促進にも力を入れており、これまでの合格者数は延べ830名を超えています。最上位の区分である特級の取得者もあり、高度な知識とスキルを持ったスペシャリストが技術力の向上を牽引しています。

技術技能訓練センターでは、電気系、板金系、表面処理系、機械加工系、金型設計系、製図系の国家技能検定に対応できるコースを用意し、生産事業所の実務経験3年以上の希望者が受講できるようにしています。資格取得者については、すべての事業所で社内ボードに取得状況を掲示、従業員の取得意欲の向上を図っています。

技能五輪全国大会出場を通じた技術・技能の向上

技能五輪全国大会は、次代を担う青年技能者に努力目標を与えるとともに、大会開催地域の若年者に優れた技能を身近に触れる機会を提供することを目的とした技能競技大会です。オカムラでは、地域ごとの予選会を経て2013年から連続で全国大会への出場を果たしており、2021年度はこれまでの曲げ板金職種に加え冷凍空調技術職種にもチャレンジし、全国大会出場を果たしました。この大会での受賞を目標に訓練を重ねることが、技術・技能の向上、また職場における指導力の向上にもつながっています。

技術技能訓練センターでの教育プログラム



改善活動を通じた人財育成 「OPS 活動」

オカムラグループの生産事業所では、ものづくりの合理性を徹底追求した生産方式である「OPS（オカムラプロダクションシステム）活動」を1997年より開始し、全員参加で推進することにより生産現場における人財の育成につなげています。

OPSの根底に流れているのは、徹底したムダの排除の思想です。安全確保を基本に、ムダのある工程を改善し、働きやすい職場環境はもとより、品質の向上、少ない資源・エネルギーによる生産プロセスを追求し、生産効率を高めています。こうした活動を通じて、ムダの存在を的確に把握し、ムダをなくせる人財の育成を図っています。

各生産事業所では、OPSに関する知識の習得を目的として、「OPS実践ハンドブック」・「OPS人材マップ 改善手法解説書」による勉強会を実施しています。また、入社1年目からの研修の体系化を図り、「OPS実践コース」、「育成自主研究会」など、若手従業員を対象とした実践の場を設け、改善活動を推進する人財を育成しています。

生産事業所全体で行う「OPS月次報告会」では、日々取り組んでいる改善事例を報告しており、こうした機会を設けることで改善への意欲向上と現場力の向上を図っています。より対応が難しい課題については、各部門より人財を選抜して「全社自主研究会」を実施し、解決を図っています。1年の活動の成果を報告する「OPS改善事例発表会」では、優れた改善事例を全社で共有し、水平展開を図ることにより生産現場全体のレベルアップにつなげています。

OPS 活動の教育体系

レベル	研修名	内容	方法
選抜（課長クラス+育成自主研より） 選抜（OPS実践コースより） 選抜	全社自主研	加工・組立・物流から工程を選定	
	育成自主研	CT改善・段取り改善の実践	
	OPS実践コース	標準作業タイプI～IIIと段取り改善	現場調査
選抜（技術技能訓練センター）	中級リーダーコース	自動化とMCT改善	専用機での演習
	初級リーダーコース	標準作業と少人化	現場調査
必須	3年目研修	標準作業	ボールペン組立演習
	2年目研修	後補充生産	ボトル・ナット組立演習
	新入社員研修-UP	7つのムダ	現場調査
	新入社員研修	5Sと5T	ブロック組立演習



OPS報告会での取り組み事例共有の様子
(2022年2月富士事業所)



OPS改善事例発表会
(2022年2月つくば事業所およびオンライン報告)